

May 22, 2019

【前日の為替概況】ドル円、上昇 米中貿易摩擦激化への懸念が和らぐ

21日のニューヨーク外国為替市場でドル円は上昇。終値は110.50円と前営業日NY終値(110.06円)と比べて44銭程度のドル高水準だった。米国が中国通信機器大手、華為技術(ファーウェイ)に対する制裁措置の一部に猶予措置を認めたことで、米中の貿易摩擦激化への懸念が和らぎ円売り・ドル買いが優勢となった。米国株相場の上昇に伴う買いも入り、一時110.67円と7日以来の高値を更新した。ただ、引けにかけてはやや伸び悩んだ。

なお、4月米中古住宅販売件数は年率換算で519万件と予想の535万件を下回ったものの、反応は限定的だった。

ユーロドルは小反落。終値は1.1161ドルと前営業日NY終値(1.1166ドル)と比べて0.0005ドル程度のユーロ安水準だった。しばらくはもみ合いの展開が続いていたが、ポンドドルの急伸をきっかけにユーロ買い・ドル売りが入り一時1.1188ドルと本日高値を付けた。ただ、ポンドドルが失速するとユーロドルにも売りが出て1.1154ドル付近まで押し戻された。

5月ユーロ圏消費者信頼感指数速報値は▲6.5と予想の▲7.7を上回ったが、相場の反応は限られた。

ユーロ円は3日続伸。終値は123.33円と前営業日NY終値(122.89円)と比べて44銭程度のユーロ高水準。ダウ平均が一時210ドル超上昇したことで投資家のリスク回避姿勢が後退し円売り・ユーロ買いが先行。ポンド円の上昇につれた買いも入り一時123.74円まで上昇する場面があった。

ポンドドルは欧州市場序盤に一時1.2685ドルと1月15日以来約4カ月ぶりの安値を付けたものの、そのあとはメイ英首相の欧州連合(EU)離脱をめぐる新提案への期待から買い戻しが優勢に。「メイ首相はブレグジットを巡る2回目の国民投票実施の議会採決を提案」との一部報道をきっかけに買いが加速し、24時前に一時1.2813ドルまで急伸した。

ただ、メイ首相の会見が始まると失速。メイ首相は会見で超党派の協力を訴え、来月初旬に議会へ提出予定の離脱関連法案に「2回目の国民投票実施を英議会にはかること」を要件とする項目が含まれることを明らかにした。ただ、与党・保守党のEU離脱強硬派から反発の声が相次いだほか、メイ政権に閣外協力する民主統一党(DUP、北アイルランド地域政党)からは懐疑的な見方が示されたため、ポンド売りが広がった。コービン労働党党首も新提案を支持しない意向を示しており、1.2697ドル付近まで押し戻された。ポンド円も24時前に付けた日通し高値141.74円から140.32円付近まで一転下落した。

【本日の東京為替見通し】ドル円は株価に連れた動きか、ポンドは振幅の激しい動きに

本日の東京市場のドル円は、昨日同様に株価をにらみながらの展開か。

米中通商摩擦に対する過度の懸念が弱まったと昨日は判断され、米株式市場は主要株式3指数ともに上昇した。本日の日経平均も反発が予想される。CME225先物は大阪取引所比で120円上昇して引けている。日経平均の上げ幅が大きくなれば、ドル円も堅調に推移するだろう。一方、上げ幅が2桁程度でおさまれば、上値を圧迫することになりそうだ。

本日は本邦の4月貿易統計や3月機械受注が発表される。為替市場は直接これらの経済指標で動くのは難しいだろうが、株式市場に影響を与える可能性は否定できないため注意を払っておきたい。東京時間は限られた材料しかないものの、NY時間には米連邦公開市場委員会(FOMC)の議事要旨が公表されることで、大きく動く可能性はある。また、米中通商摩擦に関して、昨日は過度の懸念が弱まったと判断されたものの、米中両国とも妥協を許さない姿勢には変わりがないことで、トランプ米大統領のツイッターや中国からの報道にも警戒を怠ることはできないだろう。

ドル円以外では、本日もポンドの動きに注意したい。昨日はブレグジット絡みで乱高下したが、本日はブレグジット以外でも英国から4月の消費者物価指数(CPI)、生産者物価指数(PPI)などの経済指標も発表される。対ユーロでも大きく動いているため、振幅は激しくなりそうだ。また、東京時間16時半頃にドラギECB総裁の講演も予定されているので、総裁の発言に警戒したい。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◎ 4月貿易統計（通関ベース、予想：季節調整前 2032 億円の黒字、季節調整済 375 億円の赤字）
- 08:50 ◎ 3月機械受注（予想：船舶・電力除く民需 前月比▲0.7%／前年比▲3.4%）
- 10:30 ◇ 原田泰日銀審議委員、あいさつ

<海外>

- 07:45 ◎ 1-3 月期ニュージーランド（NZ）小売売上高指数（予想：前期比 0.6%）
- 14:00 ◎ ブラード米セントルイス連銀総裁、香港で講演
- 16:30 ◎ ドラギ欧州中央銀行（ECB）総裁、講演
- 17:00 ◎ 4月南アフリカ消費者物価指数（CPI、予想：前月比 0.8%／前年比 4.5%）
- 17:30 ◎ 4月英 CPI（予想：前月比 0.7%／前年比 2.2%）
 - ◎ CPI コア指数（予想：前年比 1.9%）
 - ◇ 小売物価指数（RPI、予想：前月比 0.8%／前年比 2.8%）
- 17:30 ◎ 4月英 PPI（食品とエネルギーを除くコア指数、予想：前年比 2.2%）
- 17:30 ◎ ビスコ・イタリア中銀総裁、講演
- 18:30 ◎ プラート ECB 専務理事、講演
- 20:00 ◇ MBA 住宅ローン申請指数
- 21:30 ◎ 3月カナダ小売売上高（予想：前月比 1.0%／自動車を除く前月比 0.9%）
- 23:00 ◎ ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁、講演
- 23:10 ◎ ポスティック米アトランタ連銀総裁、あいさつ
- 23:30 ◇ EIA 週間在庫統計
- 23 日 03:00 ☆ 米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（4 月 30 日-5 月 1 日分）
- 22-23 日 ◇ 4 月ロシア鉱工業生産（予想：前年比 1.5%）

23 日

- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

21日 08:05 パウエル FRB 議長

「企業債務の伸びは鈍化」
 「景気が悪化しても企業債務には大幅な悪影響はない」
 「景気が悪化すれば個人は逼迫に直面する可能性」
 「通商問題が金融政策の道筋に影響するか判断するには時期尚早」
 「準備通貨としてのドルに脅威はない」

21日 08:57 麻生財務相

「1-3 月期の GDP は悪くない」
 「経済のファンダメンタルズはしっかりしている」
 「輸入が減って GDP が良くなっている面もある」

21日 09:59 黒田日銀総裁

「日銀による ETF 買い入れが株価変動を抑制していることは事実」
 「ETF 買い入れは株価引き上げが目的ではなく、引き上げ効果はあっても大きなものではない」

21日 10:36 オーストラリア準備銀行(RBA)議事要旨

「労働市場のさらなる改善が見られなければ、利下げが適切」
 「短期的に政策金利を変更する強い根拠はない」
 「豪ドルはここ数年のレンジ下限に位置している」
 「第1 四半期のインフレは著しく低く、住宅価格が大きく関係した」
 「利下げが必要となる可能性の高い2つのシナリオを議論した」
 「低金利による効果は過去よりも低下したことをメンバーは確認」

21日 12:12 ロウ RBA 総裁

「6 月の理事会で利下げを検討するだろう」
 「インフレ目標と一致するには賃金の上昇が遅すぎる」
 「最近のデータを鑑みれば、労働市場が驚くべき改善を見せる可能性は低い」
 「インフレ懸念を高めずに失業率が5%を下回することは可能」
 「利下げは雇用を支援し、インフレを目標に引き上げる」
 「緩和政策は豪ドルの下落につながる可能性」
 「政府による減税の遅れは家計所得を0.3%まで減速させるだろう」
 「総選挙は政策決定に影響を与えない」
 「失業率はさらに低下することが可能であり、すべきこと」

21日 15:56 英保守党下院院内総務

「必要なら、合意無き離脱、も可能とすべき」
 「メイ英首相の EU 離脱案は引き続き支持」

21日 19:03 デギンドス ECB 副総裁

「ユーロ圏の一部銀行は不測のショックへの備えとして資本積み増しを指示すべき」

21日 19:07 トリア伊財務相

「イタリアは、経済プログラムに対する信頼を回復することが必要」

21日 20:57 ポスティック米アトランタ連銀総裁

「インフレ率は目標の2.0%からそれほど乖離していない」
 「私のモデルでは、自然失業率(NAIRU)は4.1%」
 「パウエル FRB 議長と金融リスクへの見方を共有している。企業債務のリスクが増大している」

21日 23:13 ディマイオ伊副首相

「2020 年度予算案では減税を織り込む方針」
 「研究開発費と教育費は EU 財政規律から除外すべき」

21日 23:59 メイ英首相

「2 回目の国民投票を英議会に提案」
 「ブレグジットは予想以上に困難な課題」
 「ブレグジットにおけるコンセンサス模索を諦めるべきではない」
 「ブレグジットを巡る2 回目の国民投票実施の議会採決を提案する」

22日 00:15 エバンズ米シカゴ連銀総裁

「低金利が常態化した状況でのバランスシートの役割を考慮する必要」

22日 01:12 ローゼングレン米ボストン連銀総裁

「貿易摩擦による不確実性がFRB を忍耐強くする重要な理由」
 「インフレは時間とともに2%に回帰するだろう」
 「最近のデータは緩やかな成長と一致」

22日 01:21 トランプ米大統領

「メキシコは不法移民に対して責任を負わなければいけない」
 「メキシコの不法移民への対応は間違っている」

22 日 01:28 英首相報道官

「首相、2 回目の国民投票への反対姿勢は継続」

「DUP を含む他党との協議は継続」

22 日 01:33 民主統一党(DUP、北アイルランド地域政
党)

「ブレグジット新提案の詳細を待つが、致命的な欠陥は
残ったままだろう」

22 日 01:54 コービン労働党党首

「労働党はメイ首相のブレグジット巡る新提案を支持し
ない」

22 日 02:22 ドッズ DUP 副党首

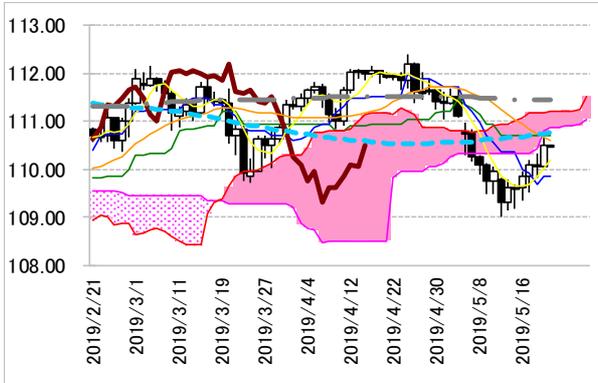
「おそらく新首相のもとで、ブレグジットは実施されるだろ
う」

22 日 02:42 バラッカー・アイルランド首相

「英首相の離脱案をアイルランドは受け入れられそうだ」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

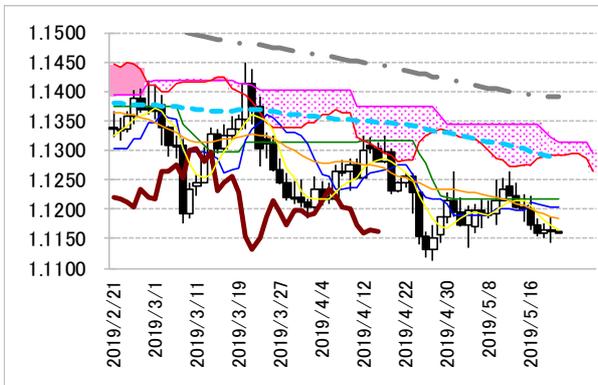


<ドル円=下押しあっても5日線前後か>

上影陽線引け。一目均衡表・転換線が水準を切り上げるなか、相場は底堅く推移した。7日以来、2週間ぶりの高値110.67円をつけている。

低下中の21日移動平均線に上値を抑えられた。しかし、地合いの良さからすれば、下押しがあっても、反落幅を110.20円前後で上昇中の5日移動平均線前後にとどめ、上昇を再開すると期待できる。その水準に踏み止まることができなくとも、転換線が引き続き支えとなろう。

レジスタンス1	111.05(5/1 安値)
前日終値	110.50
サポート1	110.13(ピボット・サポート1)
サポート2	109.85(日足一目均衡表・転換線)



<ユーロドル=安値圏で反転上昇のポイント探る展開>

小陰線引け。一時1.1188ドルと、3営業日ぶりの1.12ドル回復をうかがう場面もあった。しかし、21日移動平均線が上値を抑え、押し戻されている。強い方向感はないが、下値を切り下げている。4月26日につけた年初来安値1.1112ドルを意識しつつ下値を探りながら、反転上昇のポイントを探る展開か。

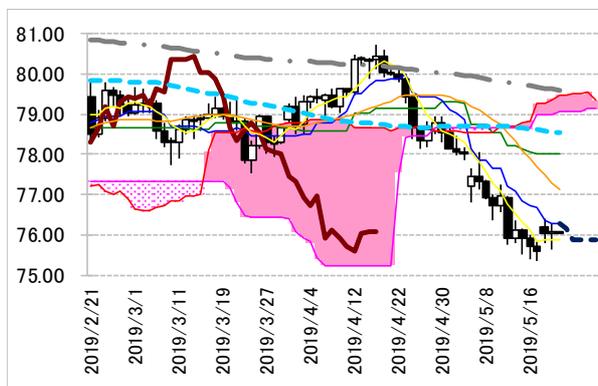
レジスタンス1	1.1203(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1161
サポート1	1.1112(4/26 安値=年初来安値)



<ユーロ円=21日線をめぐる攻防>

上影陽線引け。一目均衡表・転換線を割り込むさえない推移が先行したものの、同水準では底堅さを示し反発した。一時123.74円と、8日以来の高値まで上昇している。低下中の21日移動平均線から大きく押し戻され、目先は123.73円前後で推移する同線をめぐる攻防。ただ、21日線をこなし、低下が見込まれる一目・基準線が今後は抵抗となりそう。

レジスタンス1	123.82(ピボット・レジスタンス1)
前日終値	123.33
サポート1	122.91(日足一目均衡表・転換線)



<豪ドル円=低下中の転換線の上抜け狙う局面>

下影極小陽線引け。前日のレンジを下回る75.62円まで下振れたものの下げ渋り、一目均衡表・転換線を試す展開となった。底堅いが、転換線付近の重さは継続中。同線は明日には76.15円へ低下し、週末に75.86円で底打ちする見込み。その過程で転換線をこなし、上伸を狙う局面にある。

レジスタンス1	76.65(ピボット・レジスタンス2)
前日終値	76.06
サポート1	75.62(5/21 安値)

